

Title	ファミリーレストラン業界において、価格低下時に消費者が受ける知覚リスクの研究
Sub Title	
Author	三善達也(Miyoshi, Tatsuya) 嶋口充輝
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1125号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1125

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

三善 達也
(エッソ石油株式会社)

主査 嶋口 充輝

副査 和田 充夫

池尾 恭一

所属

嶋口 充輝 研究室

ファミリーレストラン業界において、価格低下時に 消費者が受ける知覚リスクの研究

1970年代以来、不況とは無関係とさえ言われるほど高成長を続けてきた外食産業ではあるが、1990年代に入ってから低成長時代へと突入し、1993年にはついに市場規模の成長が止まった。各社が様々な形で増収・増益に必死の努力を注ぐ中、低価格化が業界全体の大きな流れになってきている。

本研究では、「消費者は商品の購入を考える時に許容できる価格帯を持ち、価格がその下限を下回ると商品の品質に疑いを示す」ということを基本命題とし、ファミリーレストランにおいて価格が下がった場合に消費者が感じる品質に対する疑い(知覚リスク)の程度や形態を探ることを第1の目的とした。アンケート調査への因子分析の結果、消費者は価格が下がった場合、料理への不安感設備・備品への不安感サービスおよび雰囲気への不安感、の大きく3つに分かれるカテゴリでリスクを知覚していることが明らかになった。

第2にその知覚リスクが個人の属性などによりどういった影響を受けるのかということ进行分析した。性別、年齢、…といった各属性や、利用頻度や同伴者といった利用シーンはそれぞれ特定のカテゴリの知覚リスクに対して影響を与えていることが明らかになった。

第3にファミリーレストランからの価格以外の情報が、消費者の知覚リスクに与える変化について分析を行なった。これによると消費者はいくつかの情報を持つことで価格低下による知覚リスクの削減を行なっているが、情報の数は必ずしも知覚リスク削減に結び付いておらず、適切かつ有効な情報提供の模索が必要であることが判明した。

以上のことを通じて、価格低下時にファミリーレストランがとる戦略への提言を行なった。